ふくいん
福音のお知らせ No.2

発行:京田辺キリスト恵み教会
TEL :(0774)34-3227
住所:京田辺市宮津灰崎 70-5

聖書は何を語っているか？

聖書は神のことばです。この世界を造られ、支配しておられる神が語られたことばなのです。
では、聖書全体には、何が語られているでしょうか？
そこに多くのことばが費やされているのは、人間の罪についてです。聖書は、人間がいかに罪深いのかを語っています。

すべての人が罪の下にある(聖書　ローマ3章9節)

また、聖書は罪に対する神の怒りとさばきを明瞭に語っています。

人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている。(聖書　ヘブル9章27節)

さて、このような人間を神はお見捨てになったのでしょうか？
というと、神は決してお見捨てにはなりませんでした。

神は計り知れない犠牲を払って、人間を救う道を用意されたのです。それがイエス・キリストの十字架の死なのです。

すべての人間の罪を背負って十字架に架かられ、身代わりに死なれた御方、それが神の御子イエス・キリストです。

この御方を信じ仰ぎ見るところに、罪の赦しがあります。
主の御名を呼び求める者はみな救われる(聖書　ローマ10章13節)

1.罪とは

罪とは何でしょうか？聖書は、「罪とは無法である」と語っています。
無法とは、神の基準（法）を無視することです。
それは、すなわち、神のご存在を否定、無視することです。

そして、人間の考え、好み、欲望、力によって生きていくことです。
人間には、神によるご配慮、導き、力づけ、養いが絶対に必要です。
それなしに生きていこうとすることは、乳飲み子が親から離れて生きていこうとするようなものです。

そのようなことをすれば、肉体上は生きていても、心は、魂は、
飢え渇き、生きていても死んでいるのです。

ある無神論者が船旅の最中に大嵐に遭遇しました。その時、その人は、「神よ、助けてください！」と叫んだそうです。死の危険を感じた時に、心の奥底の思いが正直に出てきたのです。

「神は確かに存在され、弱い私を憐れんで、助けてくださるはずだ」

人間の心の奥底には、そのような正しい知識が刻まれています。
しかし、自分が元気で安全だと思える状況では、人間は傲慢になり、神を無視するようになるのです。

しかし、人間は必ず、死ぬ時が来ます。その時、あなたはどうしますか？神を無視したまま、真っ暗闇に向かって、死後に何があるのかも分からないまま、穏やかに自分を死にゆだねることができるでしょうか？

聖書は、はっきり語っています。人間には罪があり、その罪の問題が解決されない限り、平安をもって死を迎えることはできないことを。平安をもって生きることさえできないことを。

2.罪をどうすればいいのか

では、この罪をどうすればいいのでしょうか？私たちは、いい人間になれるのでしょうか？罪のない人間に努力してなれるのでしょうか？

いいえ、決してなれません。人間が努力して、神の基準に到達することはできないと聖書は語っています。

すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず
（聖書　ローマ3章23節）

罪についての人間の取りうる唯一の道は、罪を認めることです。
神のご存在を認め、自分は神によっていのちを与えられ、神に養われ、神に生かされていることを認めること、そして、神に導かれ、神に愛されて生きることが、本当の生き方であることを認めることです。

それは、すなわち裏返して言うならば、自分の考え、好み、欲望、力によって生きていくことが、神を無視して生きていくことが間違いであることを認めることを意味します。

これらをまとめて、聖書は、「悔い改め」と語っています。
あなたは今、神の前に、悔い改める必要があります。

どうか、今、自分の人生を静かに見つめてください。
人生の先に、老いが待っていて、死が待ち構えています。
死の扉を開いた時、そこはどこなのですか？
あなたは今、その場所について明るい展望を持っていますか？
心の奥底では、正直なところ、そこは真っ暗闇で、怖いところではないですか？
人間は、本当に死を恐れるのです。あなたも恐れていませんか？

3.死の先には何が待っているのか

なぜ、人間はこれほどまでに死を恐れるのでしょうか？
しばしばアパートやマンションでは、104 号室や 204 号室がありません。4 という数字が死を連想するので避けられるのです。人間は死について考えることさえ、避けているのです。

死の先に何があるのか、それが分からないから恐れているのです。また、一方で、心の奥底では、そこには人生の精算が待っているような予感がないでしょうか？スーパーに行ってかごに商品を入れていって、最後に通る所は？レジでの精算です。同じように、人生の最後には必ず、すべての精算が待っていることを私たちは心の奥底では知っているのです。

その精算は、罪の人生においては、罪の清算です。罪に対する支払いをしなければならないのです。神を無視するという莫大な罪に対する支払いは、神から切り離されること、すなわち神との断絶です。そこには、神からの愛や喜びや楽しみや希望や救いの供給はいっさいありません。裏返して言うならば、そこは限りない飢え渇き、悲しみ、苦しみ、絶望の場所であり、罪への刑罰の場所です。

聖書は、その場所を火の池とか第二の死とかゲヘナと呼んでいます。天国と対をなす場所であり、日本語では地獄と表現されます。

聖書は地獄の存在をはっきり語っています。どうしてでしょうか？そこに行ってほしくないからです。絶対に行くべきでないからです。家が火事で中に気付かずに寝ている人がいるならば、大声で逃げるように叫ばないでしょうか？その人が助かってほしいからです。

今、神は大声で叫んでおられます。
「罪を悔い改めて、救いを求めよ」と。

4.救いの提供

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。（聖書　ヨハネ伝3章16節）

神の罪人に対する愛は、計り知れないものがあります。神はご自身のひとり子を罪人のために、お与えになったのです。たったひとりしかいない子どもの大切さは、親にとってどれほど、かけがえのないものでしょうか。

しかし、偉大な神が、ちりにも等しい罪人のために、そのひとり子イエス・キリストを差し出してくださったのです。この神の愛の広さ、長さ、高さ、深さは、地球も収めることができません。人間の理解、想像をはるかに絶するものです。

神の御子イエス・キリストは十字架に架かってくださいました。
私たちの罪を背負って・・・　私たちの汚れを背負って・・・
私たちが受けるべき刑罰を背負って・・・
そして、私たちの莫大な罪の負債を、ご自分の尊いいのちをもって、完全に支払い尽くし、帳消しにしてくださったのです。

イエス・キリストは十字架で死んでくださいました。
私たち罪人のため・・・　私たちの罪が赦されるために・・・
私たちを地獄から救うために・・・　私たちを天国に入れるために・・

神は全能の力をもって、御子を死後三日目に復活させられました。どうか、罪を悔い改めて、十字架で死なれ、三日目によみがえられたイエス・キリストをあなたのために救いを備えられた御方として救い主として、神の御子、御子なる神として、信じ受け入れてください。

その時、あなたは救われます。